

Glocal Tenri

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.26 No.5 May 2025

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University



5

CONTENTS

- ・ 巻頭言
天理教の用語
／井上 昭洋 1
- ・ 天理教の異文化伝道と「文化」の「翻訳」
(17)
ヨーロッパにおける天理教の伝道の諸相⑥
／加藤 匡人 2
- ・ 台湾の社会と文化—天理教伝道史と災害民族誌 (25)
山名大教会の台湾伝道復興と加藤勇
／山西 弘朗 3
- ・ イスラームから見た世界 (34)
イスラームの信仰を支えるモノやツール①
／澤井 真 4
- ・ 日本占領期の香港—植民地研究の視点から— (3)
日本による植民地統治の原型：台湾の位置づけ
／山本 和行 5
- ・ 天理参考館から (38)
万国博覧会とは その1
／幡鎌 真理 6
- ・ ブラジルの宗教的風景 (5)
アメリカ南部人移民の植民地経験②
／中西 光一 7
- ・ おやさと研究所ニュース 8
2025 年度公開教学講座のご案内

巻頭言

天理教の用語

おやさと研究所長 井上昭洋 Akihiro Inoue

天理教には様々な教理用語がある。天理教独自の用語もあれば、他宗教から拝借してきた用語、独自の用語ではあるが想像が付きやすいか、説明を受ければすぐに分かるものなど、幾つかのグループに分けることができるかもしれない。ところで、現在、私は「身上」に「お手入れ」をいただいて入院している。未信者であっても「身上にお手入れをいただく」とはどういうことか、その文脈から、私が「身体に異常をきたして」入院したと予想できるだろう。「身上」＝身体、「お手入れ＋謙譲語」＝上位の存在から手を入れること、と理解することができると思う。盆栽に手を入れて整えるように、身体に親神が手を入れることが「お手入れ」であると解することができる、更にこの教理用語の理解に近づく。

しかし、本来手を入れるということは、その対象物をより良い状態にするためになされる行為であるはずなのに、対象物（人間の身体）を悪い状態（病氣や怪我）にするような行為を「お手入れ」と呼ぶのはなぜなのか？そのようなことをする親神の意図はどこにあるのか？と未信者の人であれば疑問に思うはずだ。天理教の信者であれば、そのような質問にはすぐに答えることができるし、その説明は単なる用語の説明を超えて教理の解釈に入ってくるので、ここでは割愛する。

さて、最初に天理教の用語は幾つかのグループに分けることができると述べた。その中に、日常用語に教理的な意味を持たせて（意味をずらして）使われる用語がある。例えば、「たんのう」という用語。日常用語としては、熟達していることを指すこともあるが、第一義的には満足すること、十分に満ち足りた状態を意味し、「おいしい料理を堪能する」というように使われる。教理用語としての「たんのう」も同様に十分に満ち足りることを意味するが、用いられる文脈が日常用語の「堪能」と異なるため、ややもすると本来の意味から

外れたニュアンスを帯びて使われがちだ。例えば、身上にお手入れをいただいて心を倒している人に「辛いだろうが、たんのうさせてもらいなさいね」と励ます状況は、信者であれば容易に想像できるだろうし、また実際にそのように論された経験のある人もいるだろう。本来、堪能は放っておいても自然にできるものである。誰でも美味しい料理を食べれば、上質の芸術作品を観れば、堪能できちゃうのだ。しかし、天理教では、美味しくもなければ上質でもないものを味わうような状況で「たんのう」という用語が用いられるので、我慢や辛抱といった意味を帯びてしまい、それが本来の意味に取って代わってしまうことさえある。

同様に、本来の意味を見失いがちな教理用語に「出直し」がある。この単語は一般的に、一度引き返して改めてやり直すこと、最初から新しく始めることを意味する。「顔を洗って出直す」という表現を乱暴に投げつけられた人もいるだろう。一方、天理教では死ぬことを意味する。キリスト教なら召天、仏教なら成仏と、宗教によって死を意味する単語はさまざまであり、それはまたその宗教が持つ死生観を表している。天理教の場合、知り合いの人が亡くなれば「〇〇さんが出直された」と言うのだが、あまりにも頻繁に使われるので、「出直し」は日常用語の「亡くなる」とほぼ同義に受け取られ、天理教の死生観が詰まった大切な用語であることを忘れがちだ。

随分と昔のことだが、友人の研究者に天理教では死ぬことを何と言うのか？と尋ねられたことがある。私が「出直し」と答え、その教理的な説明をしようと構えていると、遮るように「天理教ってすごいねえ。死ぬことを出直すって言うんだ」と言い、ニヤリと笑みを浮かべて「僕も早く出直したいよ」と呟いたのだった。彼のウィットに富んだ返しに、「出直し」という用語をぞんざいに使ってしまいがちなのを反省した次第である。